

「A」(十分である)、「B」(おおむね良い)、「C」(やや不十分である)、「D」(不十分である)

領域	対象	評価項目	評価の観点	A	B	C	D	評価のための参考資料	改善策・向上策	
教育活動	進路指導	ア	生徒自らが行う自己実現のための学習活動への支援	HR、授業、面接等において生徒の進路意識を深め、生徒自らが自己実現に向けた学習活動を継続する指導ができたか。	26.0%	68.0%	4.0%	2.0%	生活実態アンケート（5月と10月に実施）の結果 学校評価アンケート（10月実施）の結果	高大接続、学びの改革に対応する進路指導の研究を早急に進める必要がある。 新制度対応のため、e-ポートフォリオや推薦制度の活用も含めた進路体制の見直しなど。 家庭学習の定着に向けての研究。 軌道に乗り始めた信州学を基盤とした探究学習の研究と推進。 授業評価の有効な活用と自らの授業改革 スマホ指導の共有化。 外部機関を利用したSNS指導。 学校運営に積極的にかかわる生徒会を目指す。 家庭への定期的メール配信、各種通信類の発行の継続。 体験入学・中学校訪問等の計画的な実施。
		イ	進学情報の活用と授業・補習の充実	必要な進学情報を適切に生徒に提供できたか。情報を分析・共有し、授業や補習で弱点克服などに生かされたか。	20.0%	70.0%	8.0%	2.0%	学年会・教科会での検討と改善策の実施。	
		ウ	進路決定に向けたキャリア教育の充実	学習、班活動、行事等の学校生活全般を体系づけ、進路実現の支援ができたか。	18.0%	70.0%	10.0%	2.0%	学年会・教科会での検討と改善策の実施。	
	学習指導	エ	授業アンケートの実施とその分析結果の共有と活用	授業アンケートを実施し、学年会・教科会等で検討がなされたか。また、その分析結果が授業に活かされたか。	21.6%	62.7%	13.7%	2.0%	学年会・教科会での検討と改善策の実施。	
		オ	生徒の家庭学習時間の確保	生徒が進路実現に向けて、自ら学び向上できるような指導の工夫ができたか。	11.8%	64.7%	21.6%	2.0%	生活実態アンケート（5月と10月に実施）の結果	
		カ	教科指導力向上の取り組み	相互の授業参観などの教科内での研修を通して、授業の改善に向けた活動ができたか。	11.8%	49.0%	35.3%	3.9%	学年会・教科会での検討と改善策の実施。	
	生徒指導	キ	規範意識の向上	学校生活全般において、規範意識の向上をはかる指導ができたか。	25.5%	70.6%	3.9%	0.0%	生活実態アンケート（5月と10月に実施）の結果 学校評価アンケート（10月実施）の結果	
		ク	人権尊重の意識の向上	講演会を行うことや、カウンセリングの機会を確保することによりいじめ等のない安心・安全な学校づくりを進めることができたか。	31.4%	64.7%	3.9%	0.0%	学年会・教科会での検討と改善策の実施。	
	生徒会活動	ケ	実りある生徒会活動への支援	計画的・自主的な生徒会活動への支援ができたか。	17.6%	70.6%	7.8%	3.9%	各行事後のアンケートの結果	
		コ	実りある班活動への支援	計画的・自主的な班活動への支援ができたか。	19.6%	76.5%	3.9%	0.0%	各行事後のアンケートの結果	
学校運営	家庭・地域・社会との連携	サ	地域・家庭との協力関係の強化	校外での教育活動の情報、地域住民・保護者の参加できる学校行事の情報を十分に発信できたか。「PTA」への保護者・職員の積極的な参加があったか。	19.6%	68.6%	11.8%	0.0%	(総会・学年PTA・学級PTA・PTA行事への参加状況、生徒会・班活動等による地域活動へ参加状況などから)	
		シ	体験入学等での情報発信	本校の目指す学校像や育てたい生徒像などの受け入れ方針（アドミッションポリシー）等の情報を、中学校や中学生及びその保護者が十分満足できるような形で発信できたか。体験入学での体験授業のアンケート結果における、肯定的な回答の割合を参考にする。	25.5%	66.7%	5.9%	2.0%	体験入学のアンケート結果	